

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375000375		
法人名	医療法人名翔会		
事業所名	グループホーム 和合の家		
所在地	愛知県愛知郡東郷町大字春木字白土1-1884		
自己評価作成日	令和2年12月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

周辺は田畑など自然に囲まれており、居室内からは、鳥の鳴き声や朝日が拝め静かな環境で過ごすことができます。「和き合あいと暮らせる家」を基本理念に入居者、職員支え合いながら生活している。老健、クリニックも併設しており車椅子の方の入浴や緊急時の対応など協力体制ができています。居室によっては洗面台や冷蔵庫トイレも完備しており、ご家族の方もゆっくりと過ごせ宿泊も可能な十分な広さがあります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375000375-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375000375-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、1ユニットのホームであり、理念にも掲げられているように、利用者が毎日の生活を和気あいあいと過ごすことができるように、リビングは広い空間がつけられており、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。今年度は感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっている状況でもあるため、毎日の生活をホームの広い空間で過ごすことができることは、利用者のストレスの軽減にもつながっている。利用者の外出については、関連事業所を含めた事業所の敷地が広大であることで、利用者が外部の方と接することなく散歩に出かける支援も行われている。職員体制については、常勤職員を中心の支援体制がつけられていることで、日常的に職員間で情報を共有する機会をつくり、利用者一人ひとりの支援に反映する取り組みが行われている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年12月17日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は事業所の玄関やリビングに掲示して目につきやすいようにし、「和き合うあいと暮らせる家」としてホームが第二の我が家になるよう、その人らしい生活、個性、価値観を大切にしたいケアに日々取り組んでいる。	ホーム開設時につくられた理念を職員の支援の基本に考え、ホーム内に理念を掲示する等、職員が日常的に理念を意識する働きかけが行われている。利用者が「和き合い合」と暮らすことを目指した支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響により買い物や外出などの外出行事ができなくなっているが、天気がいい時などは施設周辺を散歩し近所の方とあいさつを交わしている。	今年度は感染症問題があることで地域の方との交流が困難になっているが、例年は、地域の行事に出かけたり、関連事業所でボランティアの方による行事が行われる際には、ホームからも参加する交流が行われている。	感染症問題があることで、地域の方等、外部の方との交流が困難な状況が続いているため、感染症問題が落ち着いた際には、外部の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は新型コロナの影響で自粛しましたが、毎年地域学生の職場体験を受け入れたり、町内の行事に参加することにより認知症の方の理解につながるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に一回開催していたが、新型コロナウイルスの影響により今年度は4月より報告書を作成し2ヶ月に一回、高齢者支援課、地域包括支援センターに持参し意見をいただいている。	今年度は書面による実施となっているが、会議を開催する際には、様々な分野の方の参加が得られており、定期的な交流の機会にもつながっている。また、町の担当職員も参加しており、情報交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	2ヶ月に一回発行している和合の家だよりを、高齢者支援課、地域包括支援センターに持参し入居者の暮らしぶりや空き状況を報告し、いつでも相談できる関係を築けるよう取り組んでいる。	町の担当部署とは、関連事業所を通じた交流についても他にも、ホームからも便りを持って情報交換の機会をつくる等、交流の取り組みが行われている。また、町の介護相談員を通じた情報交換の機会もつられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	普段の業務から職員同士声をかけあい、言葉や身体拘束をしないよう意識し取り組み、出入り口を施錠せず、入居者が行きたいところへ行けるようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、エレベータを利用者も動かすことができることで、職員間での見守りが行われている。また、関連事業所との合同の毎月の現状の検討が行われている他にも、定期的な研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修などを行い、職員の意識統一をはかり虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修などに参加し学び、必要時に支援できる体制を整えていく必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご本人、ご家族に契約前に不安や疑問がないか十分話をして聞きだし、ホームでできること、できないことも説明を行い納得のうえ契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問時やご利用の方が自室でゆっくりされている時などに声をかけ意見や要望を聞いている。要望など出ればその都度話し合い、職員全員で解決できるよう取り組んでいる。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、行事を通じた交流の機会がつけられている。家族からの要望等には、ホーム管理者が受け、運営法人に報告されている。また、2か月毎に便りの作成が行われている。	家族がホームに訪問する機会が困難になっていることもあるため、家族への情報発信について、今後に向けた、ホームの検討に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より業務にかかわれるようにし、できるだけその場で職員の意見や要望を聞けるようにしている。	毎月の職員会議の他にも、1ユニットの職員体制であることで、日常的に管理者と職員が情報交換を行い、ホームの運営に反映する機会をつくっている。また、2階のフロアで個別面談の時間もつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年二回人事考課評価を作成し、代表者に報告することにより勤務状況を把握している。その結果をもとに賞与や昇給に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりのレベルに合わせた研修を計画しており、研修後はホーム内で伝達講習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町主催の研修会に参加し、近隣の事業所と意見を交わしたり、愛知県グループホーム連絡協議会に参加しのグループホームと施設見学を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にできる限り、ご本人、ご家族に会い要望など直接話をし伺い、その情報をもとに書類で職員が共有し、利用者に受け入れられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の困っていること、不安なこと、要望などを相談時十分にききとり、入居前にGHに訪問していただいたり、連絡を行ったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や相談にみえた際、ホームの理念やサービスの内容など何ができてできないか説明し、ご本人ご家族と相談し話し合いケースにより他のサービスや施設の紹介など支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	管理者が日頃気づいた点やスタッフからの提案を受けて、スタッフ全員から意見を聞くなどし、必要があれば法人代表者に相談しよりよいケアを目指した取り組みに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会時に日頃の様子をお伝えし、職員だけでは解決できないことはご家族に相談し協力いただいている。お茶やお食事を一緒にとっていただきくつろいで過ごせるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人やご家族から生活歴などお伺いし、現在自粛しているができるだけ以前から利用していた馴染みの所へ出かけたり、近所のスーパーに出かけた際、知り合いの方がみえ声をかけていただき馴染みの関係が途切れないよう支援している。	利用者の中には、関連事業所に関係の近い方が利用者として利用しており、例年は、行事等を通じて交流の機会がつくられている。また、家族との交流も行われており、利用者の中には、遠方に住んでいる方との交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	なじみの関係ができると気の合う方同士お互いのお部屋を訪問しあっている。又、職員が居室へ訪問時に話を聞いたり、相談を受けたり職員が調整役となれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅に戻られた方に行事のお誘いをしたり、ご家族からも相談があり、ボランティアさんを紹介したりサービスが終了しても支援できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の会話の中で、あるいは表情や態度等で気づいたことも、全スタッフが共有し本人の意向にそえるよう、管理者を含めその都度検討している。希望に添えない場合は、代替案を提案するようにしている。	1ユニットの職員体制でもあることで、日常的に利用者に関する情報交換を行い、意向等の把握につなげている。また、定期的なカンファレンスの時間もつくりながら、利用者に関する意向等が日常の支援に反映できるように検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族から収集した情報をもとに、職員全員が生活歴やライフスタイル、既往歴、家族背景、価値観などできるだけ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中で、一人ひとりの体調や心身状態の変化に留意し、日誌やカルテに記録し申し送るなど全職員が気づきを共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活の中でご本人から、思いや意見などを聞き、ご家族には面会時、ご本人の日々の生活の様子を話しながらご意見を伺っている。職員の気づきを大切に協力して介護計画を作成している。	介護計画は3か月毎に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。管理者が計画作成担当者でもあることで、日常的に職員間で情報交換を行いながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご利用者の日々の暮らしぶりの様子や行動を記録することで情報を共有し、職員一人ひとりの気づきを大切に介護計画の作成、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向に応じて通院や往診を受けられるよう支援し、併設の老健において、行事の参加や車いすの方の機械浴での入浴など個々に合ったサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	散歩へ行った際、あいさつをかわし馴染みの関係が築けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までのかかりつけ医の受診時には、ご家族にご本人の変ったことや普段の様子を伝え主治医に相談してもらうようにしている。併設にクリニックもあり月1～2回定期受診される方もみえる。	運営母体は医療機関でもあるが、運営母体とは別の医療機関との連携が行われており、定期的及び随時の医療面での支援が行われている。利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続しており、家族の協力も得ながら受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	クリニックと老健が併設しており、看護師が配置しているため、気軽に相談できる関係が築かれている。ケガ、昼夜急変時に応急処置など支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、ご家族に連絡し管理者が付き添い安心して入院していただいている。入院中は、職員が面会に行き、入院先の関係者やご家族から経過を聞くなどして把握し、早期に退院できるようアドバイスするなど支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期や延命治療について入居前に、ご本人ご家族と話し合いながらできることできないことを説明し書面に残している。また、入居者の重度化に合わせその都度相談し、話し合いを行っている。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続することができるように支援が行われているが、看取り支援は行われていないことを家族に説明が行われている。医療機関や特養等、次の生活場所への移行に関する家族との話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルがあり、いつでも見れるよう掲示してある。また、消防署で実施している普通救命講習を全職員参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。併設の老健の協力による避難誘導、入居者の方との水消火器による消火訓練を行っている。	年2回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。訓練自体はホーム単独であるが、併設している関連事業所と連携した対応が行われている。また、水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	近隣の方との災害に関する協力関係について、関連事業所とも連携しながら、支援可能な内容に関する検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自分自身をその一人ひとりの立場に置きかえ、言葉がけなどさりげなく注意しながら行い、個人の情報はイニシャルを使用しメモなどの使用済みの物はシュレッダーにかけ誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	職員による利用者への対応や言葉遣い等については、日常的に職員間で意識するような機会をつくりながら、振り返り等につなげている。また、利用者への対応で管理者が気になった際には、カンファレンスを通じて検討する機会をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の表情やなにげない会話の中で思いや希望をくみ取り自己決定できる機会を多く持つようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝時間、食事や入浴など時間を決めず一人ひとりのリズムに合わせて生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で普段からおしゃれをされている方はおまかせし、外出時などはマニキュアをしたりお化粧したり、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりできることを把握し、調理や盛りつけ配膳片付けまで協力して行い、職員も同じテーブルで食事をとり雰囲気づくりを大切にしている。	メニューを職員で考え、利用者の誕生日の際には利用者が希望するメニューにも対応している。利用者も調理や片付け等のできることに参加する機会をつくっている。また、おやつ作りや季節等に合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事、水分の形態を提供し確保できるようにしている。体操後や散歩入浴後などおやつ以外の時間でも水分が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず声かけを行い見守り、介助をし口腔ケアを行っている。歯科往診があるので、不具合があった時など連携がとれるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握し、必要があれば誘導し、出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	利用者の排泄記録を日誌に残し、申し送りを通じて職員間で情報共有につなげ、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。居室にトイレが設置されていることで、一人ひとりに合わせたベッド等の配置が行い、トイレでの排泄の継続につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は、繊維質の多い食材を積極的に取り入れ、牛乳等水分を多くとっていただき、毎朝のラジオ体操や散歩等の運動も無理のない程度で参加し、毎日排便の有無を確認する等、便秘の予防対策をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人ひとりの希望にあわせれるよう、曜日や時間帯を決めず、いつでも入浴できるようにしている。季節を感じていただけるよう、菖蒲や柚子などを入れ、入浴を楽しめるようにしている。	週2回以上の入浴ができるように支援が行われており、利用者の希望に合わせた入浴の回数にも対応している。利用者の身体状態に合わせた入浴の支援も行われている。また、季節等に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、リビングでも横になっていただけるよう畳のコーナーがあり、ソファも多く配置し一人になれる空間もある。夜間は、安眠できるよう室温調整などこまめに行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を作成し職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合った役割を職員が把握し力を発揮してもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	以前は毎月1回外出、外食に全員で出かけていたが新型コロナの影響で外出は控えている。天気がいい日は施設の周りを散歩して地域の方々とあいさつを交わして交流し気分転換をはかっている。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、事業所の敷地が広い利点を活かしながら、ホームの外を散歩する機会をつくっている。例年は、年間を通じて外出行事が行われており、喫茶や季節に合わせた外出が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の了承をいただき、少額のお小遣いを持たれ買い物の際支払う方もみえる。外出時には、お預かりしているお小遣いで支払できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望に応じて電話をかけたり、携帯電話を持たれてる方もみえ着信を確認しかけれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングのソファや家具などの配置も入居者と一緒に考えて考え居心地良く過ごせるよう工夫している。ひな人形、五月人形、手作りのこいのぼり、クリスマスツリーなど入居者と一緒に飾り付けを行うことにより季節感を出せるよう取り組んでいる。	ホーム内は広い空間がつくられてあり、リビングが建物の3階にあることで採光に優れた生活環境がつくられている。また、利用者の生活空間が建物の2階と3階に分かれているが、利用者の状況等に合わせて2階のフロアで過ごすこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同士リビングでくつろがれる方もあるが、独りになりたい時には離れた静かな所にソファを配置し落ち着いてくつろげられるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、ご本人ご家族と相談してきていただき居心地よく過ごせるようにしている。	利用者の中には、居室に入居前からの馴染みのある家具類、好みの物、入居前の作品等を持ち込んでいる方もいる。また、広い居室を活用しながら、ベッドの位置を検討する等、利用者の状況に合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの力を職員が把握しており出来ること、分かることは見守りさりげなく介助を行い自立した生活を送れるようにしている。		